

専門分野：地域・在宅看護論

<概要>

地域・在宅看護論は地域で暮らしているすべての人を対象とし、様々な健康状態を支援するための考え方や方法を学びます。

講義は「地域・在宅看護概論Ⅰ～Ⅱ」、「地域・在宅看護各論Ⅰ～Ⅳ」、6科目6単位135時間で構成されています。

「地域・在宅看護概論Ⅰ」は人々が暮らす地域の特徴、そこに住み暮らすすべてのライフステージの人々の多様性などを理解していきます。「地域・在宅看護概論Ⅱ」は地域で暮らす人とその家族が、居宅で病気や障害とともに地域で暮らすための支援、入院時から暮らしを見据えた退院支援や退院調整、在宅ケアの考え方を学びます。

「地域・在宅看護各論Ⅰ」は在宅療養を支える社会保障制度、ケアマネジメント、暮らしや日常生活行動の支援を学びます。「地域・在宅看護各論Ⅱ」は居宅で安全・安楽・自立した暮らしの支援、病気や障害と向き合いながら治療や介護を受け、入院から在宅へ活へ移行できるように支援を学びます。「地域・在宅看護各論Ⅲ」は人々とその家族の状態に合わせ、多職種との連携・協働し、社会資源の活用、看護援助によって、生活の質を維持・向上するための方法を学びます。「地域・在宅看護各論Ⅳ」は在宅療養が必要な人とその家族に対する在宅看護技術を学びます。

<単位> 6単位 135時間

<目的>

地域で暮らす人とその家族を理解し、在宅での看護の基礎を学ぶ。

<目標>

1. 地域の特徴を知り営まれる暮らしを理解する。
2. 地域に暮らす人々とその家族を理解する。
3. 地域に暮らす人々とその家族に対する看護を理解し、技術を習得する。
4. 地域に暮らしと健康を支える社会保障制度、社会資源を理解する。

<地域・在宅看護論の科目構成と単位時間数等>

科 目	単位	時間	年次	時期	学 習 内 容
地域・在宅看護概論Ⅰ	1	15	1	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で暮らす人々 ・地域の特徴
地域・在宅看護概論Ⅱ	1	30	2	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・在宅看護 ・入院時と退院支援・退院調整の看護と連携 ・多職種連携と協働 ・地域で暮らす人々とその家族
地域・在宅看護論Ⅰ	1	30	2	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・在宅看護と社会保障制度 ・ケアマネジメント ・訪問看護制度 ・人々の暮らしを継続するための支援
地域・在宅看護論Ⅱ	1	30	2	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の状態・状況に対する看護 ・医療管理を必要とする人々への看護 ・訪問看護技術
地域・在宅看護論Ⅲ	1	15	2	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護における看護過程 ・事例
地域・在宅看護論Ⅳ	1	15	2	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護過程の展開 ・在宅における看護技術
合 計			6単位		135時間

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
地域・在宅看護概論 I	専任教員	1 年次後期	1 単位/15 時間
科目目標			
1. 地域の歴史、文化から暮らしを理解する。 2. 暮らしから地域の特徴を理解する。 3. 地域に暮らす人の健康と支援を理解する。			
教科書			
1) 系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2) 系統看護学講座 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践 医学書院 3) 系統看護学講座 基礎看護学① 看護学概論 医学書院			
参考図書・文献			
1) 新体系 看護学全書 基礎科目 社会学 メヂカルフレンド社 2) 系統看護学講座 成人看護学概論 医学書院 3) 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 4) 系統看護学講座 小児看護学概論 医学書院			
評価方法			
レポート・課題・演習 100%			
授業計画			
回数	単元	授業内容等	授業方法
第 1 回 ～ 第 5 回	地域の暮らし	1. 地域の歴史、文化伝統 2. 地域の特徴 3. 地域で暮らす人の衣食住 4. 暮らしを支える社会資源 5. 看護の対象となる地域 暮らす人の環境、状況を調査する 地域の社会資源を調査する	講義 グループ ワーク
第 6 回 ～ 第 7 回	地域で暮らす人の健康	1. 地域で暮らす人の健康 ライフステージ別の健康管理 自助 2. 健康を維持向上するための地域での協力体制 互助	
第 8 回	まとめ	1. 発表 調査の結果 健康管理、協力体制	

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数	
地域・在宅看護概論Ⅱ	専任教員	2年次前期	1単位/30時間	
科目目標				
1. 地域・在宅看護の目的と基本理念を理解する。 2. 在宅ケアと多職種連携における看護の役割を理解する。 3. 地域に暮らす人とその家族の形態、機能の特徴を知り、家族に対する看護を理解する。 4. 地域に暮らす人の日常生活を支える福祉用具の機能と役割を学ぶ。				
教科書				
1) 系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2) 系統看護学講座 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践 医学書院 3) 系統看護学講座 基礎看護学① 看護学概論 医学書院				
評価方法				
筆記試験・課題・演習・レポート		100%		
授業計画				
回数	単元	授業内容等	授業方法	授業担当
第1回 ～ 第5回	在宅看護と看護の継続性	1. 地域・在宅看護をめぐる社会背景 2. 暮らしを支える看護 地域看護と在宅看護 3. 在宅看護の倫理と基本理念 権利擁護、エンパワメント、 パートナーシップ 4. 継続看護の意義と方法 1) 入院時、退院支援・退院調整 2) 治療の場からの移行期 外来、施設、訪問、通所 3) 在宅療養の安定期	講義 グループ ワーク	専任教員
第6回 ～ 第9回	多職種との連携	1. 地域連携クリティカルパス 2. 退院調整に関わる多職種との連携 3. 在宅での多職種との連携 4. 地域の社会資源		
第10回 ～ 第11回	福祉用具	1. 福祉用具と住宅改修の実際 地域に暮らす人の生活環境	レポート	専任教員
第12回 ～ 第14回	地域に暮らす人とその家族	1. 地域に暮らす人の療養を支える看護活動 健康管理、自立支援、ICF 病状・病態の予測と予防 2. 家族の役割、形態、機能の変化 3. 家族の理解 家族システム理論 家族発達論 家族ストレス対処理論 4. 家族を支える レスパイトケアなど	講義 グループ ワーク	専任教員
第15回	筆記試験			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数	
地域・在宅看護論 I	専任教員・社会福祉士・看護師	2年次前期	1単位/30時間	
科目目標				
1. ケアマネジメントを理解する。 2. 在宅看護の法的基盤と訪問看護制度と機能を理解する。 3. 在宅での暮らしを継続するため支援を理解する。 4. 在宅看護における看護過程の特徴を理解する。				
教科書			参考文献	
1) 系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2) 系統看護学講座 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践 医学書院 3) 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 4) 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉 医学書院 5) 落合芙美子他 新体系 看護学全書 別巻 リハビリテーション看護 メヂカルフレンド社 6) 田村 恵子他：経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア メヂカルフレンド社 7) 神田 清子他：成人看護技術 がん・ターミナルケア メヂカルフレンド社			1) 渡辺裕子 他：家族看護を基盤とした在宅看護論 日本看護協会出版会	
評価方法				
筆記試験・課題・演習・レポート		100%		
授業計画				
回数	単元	授業内容等	授業方法	授業担当
第1回 ～ 第4回	ケアマネジメントと社会資源	1. ケアマネジメント ケアマネジメントと社会資源 ケアマネジメントの実際 2. 介護保険制度と在宅ケア 地域ケア会議 3. 地域のネットワークづくり	講義	社会福祉士
第5回 ～ 第9回	在宅看護・訪問看護の制度と機能	1. 在宅看護の法的基盤とシステム 1) 介護保険制度 2) 医療保険制度 3) 障害者総合支援法 4) 難病法 5) 医療法・医療介護総合確保促進法 2. 訪問看護制度 訪問看護の機能、訪問看護ステーションの運営	講義 グループワーク	看護師
第10回 ～ 第14回	在宅で暮らしを継続するための支援	1. ターミナル 1) 全人的苦痛 死の受容過程とアセスメント援助 2) 緩和ケア 患者ニーズのアセスメント/症状マネジメント/全人的ケアと予期的悲嘆に対するケア/家族ケア/緩和ケア/チームアプローチ 3) ターミナル期の看護 全人的苦痛のアセスメントと苦痛軽減への援助/ 症状マネジメント（呼吸困難、下肢浮腫、排便異常、食欲不振、睡眠障害）/家族ケア 4) エンゼルケア 5) 最期を在宅で迎える療養者 疼痛管理、麻薬の管理、グリーフケア	講義	看護師
第15回	筆記試験			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数	
地域・在宅看護論Ⅱ	専任教員・看護師	2年次後期	1単位／30時間	
科目目標				
1. 在宅で暮らす人の状態・状況にあわせた看護を理解する。 2. 在宅で暮らす人の医療処置、看護を理解する。 3. 在宅で暮らす人を支える看護技術を習得する。				
教科書				
1) 系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2) 系統看護学講座 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践 医学書院 3) 系統看護学講座 成人看護学[10] 運動器 医学書院 4) 系統看護学講座 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 5) 落合英美子他 新体系 看護学全書 別巻 リハビリテーション看護 メヂカルフレンド社				
評価方法				
筆記試験・課題・演習・レポート 100%				
授業計画				
回数	単元	授業内容等	授業方法	授業担当
第1回 ～ 第4回	在宅での暮らしを継続するため支援	1. 家屋環境と移動の支援 2. 食品管理と食事の支援 3. 排泄環境の支援 4. 清潔行動の支援 5. 睡眠と休養 6. 在宅での安全管理 閉じこもりの防止、感染症、災害時	講義 ※校内実習	専任教員
第5回 ～ 第8回	在宅で暮らす人の状態・状況にあわせた看護 在宅で暮らす人の医療処置と看護	1. 継続した支援が必要な療養者 1) 関節リウマチ 2) 脊髄損傷 社会資源、補助具の活用 2. 日常生活活動の低下予防及び疾病の再発予防 中心静脈栄養法 胃瘻、経管栄養法※	講義	
第9回 ～ 第12回		3. 在宅酸素供給機器の管理 4. 呼吸機能低下に対する支援 在宅酸素療法、在宅人工呼吸器療法 5. 日常生活活動の低下予防及び疾病の再発予防 膀胱留置カテーテル法、ストーマケア、褥瘡の管理	講義	看護師
第13回 ～ 第14回	訪問時の看護技術	1. 訪問時のマナー 2. 面接技術 自己紹介、情報収集、場の設定 コミュニケーション	講義 グループワーク	専任教員
第15回		筆記試験		

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数	
地域・在宅看護論Ⅲ	専任教員・看護師	2年次後期	1単位／15時間	
科目目標				
1. 難病や障害をもつ人の生活や支援を理解する。 2. 在宅で暮らす人への支援を事例から理解する。				
教科書				
1) 系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2) 系統看護学講座 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践 医学書院 3) 篠崎恵美子他 事例から学ぶ地域・在宅看護論 医学書院 4) 落合芙美子他 新体系 看護学全書 別巻 リハビリテーション看護 メヂカルフレンド社				
評価方法				
筆記試験・課題・演習・レポート 100%				
授業計画				
回数	単元	授業内容等	授業方法	授業担当
第1回 ～ 第2回	在宅看護における看護過程	1. 看護過程の特徴 1) 療養者のヘルスアセスメント 2) 家族・介護力のアセスメント 介護力に応じた家族支援 事例 3) 看護計画、実施、評価 4) リスクマネジメント	講義	専任教員
第3回 ～ 第6回	在宅で暮らす人への支援	1. 認知機能低下に対する支援 服薬管理、日常生活の安全、社会資源の活用	講義	看護師
		2. 難病・障害をもつ人々 当事者の語り部、事例	講義	専任教員
		3. 療養する人とその家族の意見の対立 意思決定、家族支援、社会資源 多職種連携と協働 4. 神経難病の療養者に対する地域支援チームによる退院前カンファレンスと多職種連携 社会保障制度、医療支援	講義 演習 グループ ワーク	専任教員
第7回	まとめ	発表		
第8回	筆記試験			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
地域・在宅看護論Ⅳ	専任教員	2年次後期	1単位/15時間
科目目標			
1. 在宅における看護技術を習得する。 2. 模擬訪問看護の場面で実践する。			
教科書			
1) 系統看護学講座 地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 医学書院 2) 系統看護学講座 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践 医学書院 3) 篠崎恵美子他 事例から学ぶ地域・在宅看護論 医学書院			
評価方法			
課題・演習 100%			
授業計画			
回数	単元	授業内容等	授業方法
第1回 ～ 第7回	訪問看護の事例	1. 在宅で暮らす人とその家族の看護 1) COPD 2) 神経難病 2. 家庭にある物を使った看護技術 ※ 物品の準備・工夫、経済性、後片付け 3. 多職種連携・協働 4. 社会資源の活用	講義 ※校内実習 グループ ワーク
第8回	まとめ	発表	